

## IT 化の進展にともなうエネルギー消費形態への影響評価<sup>1</sup>

### - 要 旨 -

第 2 研究部環境グループ  
グループマネージャー 工藤拓毅

IT 化の進展は、一方で電力を中心としたエネルギー消費機器の普及を促すとともに、情報の高度化を進展させ、家庭生活や経済活動を大きく変革させる可能性があり、その変革によりエネルギーの消費構造や消費量に大きな影響を与えることが予想される。しかしエネルギー消費機器の普及がエネルギー消費の増大をもたらすのか、あるいは IT 化により効率化された機器の普及によりエネルギー消費が減少するのかといった詳細な分析は、ようやく行われるようになってきた段階であり、今後当該分野における影響評価の蓄積と考察が重要になってくるものと思われる。

本報告は、IT 化の進展にともなう 2020 年までのエネルギー消費への影響評価について、その概要について取り纏めを行うものである。具体的には、情報通信インフラの将来像を描き、通信インフラの進化による社会システムへの影響と、通信インフラ整備がもたらすエネルギー消費への影響を想定している。そして通信インフラの整備を前提として、各部門（製造場、金融サービス、物流システム、小売り、オフィス、公共サービス、医療サービス、学校教育、家庭生活、交通システム）のエネルギー消費に与える影響を定量的に評価している。

お問い合わせ： [info-ieej@tky.ieej.or.jp](mailto:info-ieej@tky.ieej.or.jp)

---

<sup>1</sup>本報告は、平成 13 年度にエネルギー総合推進委員会が（財）日本エネルギー経済研究所に委託し実施した調査「IT 化の進展にともなうエネルギー消費形態への影響評価」についての概要をまとめたものである。詳細については、本報告を参照されたい。